

第3回区民車座集会意見交換内容

※読みやすさ等のため、文意を損なわない範囲で、重複表現、言い回しなどを整理しています。

※またマイクを通じていない発言も多くあり、明確でない部分などは・・・で示しています。

1 開催日時 平成26年3月24日（月）午後6時30分から午後8時

2 場所 中原区役所5階会議室

3 参加者等 参加者29名、傍聴者42名

4 概要

（1）市長挨拶

改めまして、みなさん、こんばんは。

今日は、区民車座集会に多くの方にご参加をいただき本当にありがとうございます。また、今日は傍聴の方もわざわざお越しいただきありがとうございます。

今日は、麻生区、川崎区に続いて、中原区ということで、中原区は、一番動きのあるっていったら語弊があるかもしれませんがけれども、新しい住民の方たちも入ってきていて、そういった意味で勢いのあるまち、動きのあるまちだからこそ、いろいろな課題もあると思います。

そういった意味で、さまざまな意見があると思いますが、今日は、建設的な意見交換できればと思っていますし、皆さんの声を必ずしも全部受け止められるわけではないかもしれませんが、しっかりと受け止めて、市政の中に活かしていきたいと思っていますので、どうぞよろしくお願いします。

（2）意見交換

ア 教育

桜庭さん：市ノ坪に住んでおります桜庭と申します。今日は、習熟度別指導ということについて意見を申し上げさせていただきます。習熟度別指導については、学級が解体され、子どもたちにとって、楽しい居場所がなくなるとか、子どもたち同士の教え合い、助け合いがなくなって、いじめや不登校などトラブルをつかみにくくなるなど、さまざまな問題が指摘されています。

教育学者の佐藤学さんは、習熟度別、能力別の指導については大半が失敗し、推進している国は少なくとも欧米の先進国には存在しない。習熟度別指導っていうのは時代遅れであると言っています。スペイン、ドイツ、フィンランドなどは一つの学級の子ども数を20人くらい、イタリア、ギリシャなどは17、8人前後と、ヨーロッパの国々はほとんど少人数学級です。

40人学級で、国際テストでの成績の上位を占めている日本の子どもたちと、教師の努力は尊敬に値すると思います。

私が注目しなくてはいけないのは、子どもたちが学ぶところから逃げ出している、そういう事態。1998年に、ちょっと古いのですがけれども、東京都の調査では中学2年生は

43%が自宅の学習時間がゼロ、こういう結果が出ているのですね。

私たちの課題はそこからわかると思います。

以上です。

長戸さん：すいません。長戸と申します。

私は、中学校給食が、再来年から始まると思うのですけれども、食の安全について是非お願いしたいことがございまして、残留農薬と、残留放射能、その検査は確実にしていただきたいと思います。前市長は、学校給食で冷凍ミカン、9ベクレルとかを出したり、色々あって、その時に、市長が、食べて放射能の危険を知るという発言をして大炎上をして、たぶん、秘書室の方は記憶にあると思うのですけれども、お母さんの一部に不安がまだ残っているので、是非とも検査、民間に委託するということになると思うのですけれども、その関係で厳しいと思うのですけれども、これだけをお願いします。学校給食も一括納入でやっているのですけれども、保育園とか、幼稚園などは一回も放射能の検査をしていないのです。私はすごく危険だと思いますので、民間委託にしても、そのあたりはきちんとしてほしいと思います。

よろしく願いいたします。

桜庭さん：こんばんは。小学校に勤めておりました桜庭です。偶然ですけれども、市長が、川崎区の車座集会で、食育が大事だと、将来大人になっていくこの時期にどういう食を選択するかということ、非常に大切なのだということ、それを学ぶ時期としての中学校給食ということ話をされて、私は、すごくびっくりして、心から同感したのですね。

是非、その大事な食育を進めていくためには、それに携わる栄養職員がいなくてはいけないと思います。栄養職員が学校にいれば、子どもたちや、学校の様子、地域のこともわかり、献立をたてられます。また、非常に問題になっているアレルギーのお子さんをおひとり、おひとり、細やかな対応もできると思います。

もう一つ配慮していただきたいのが、超多忙な中学校現場への配慮です。私、経験的に、給食事務はものすごく大変なのです。それを担当者なしに、中学校給食で導入しますと、やっぱり現場はすごく混乱を抱えることになる、歓迎されない給食になってはいやだなと思うので、やっぱり職員の配置がとても大事だと、そういう、いきいき元気な中学生が育っていくような、日本一おいしい給食っていえるような、市長が目指す給食実現のためにも、是非、各校1名の栄養職員の配置をお願いしたい。

財政的にとっても厳しいと伺っているのです、自治体の職員で無理だったら、民間の栄養士さんを活用することも視野に入れて、是非その実現を目指していただきたいと思います。

君嶋さん：お久しぶりです。

中学校給食の実施、とてもうれしく受け止めています。その実施に当たりましては是非自校方式でというのが今日のお願いです。自校方式と言うに堪えるには、各学校に栄養職員が配置されていること、それから各学校での調理、それを基本としてお願いしたいと思っています。

自校方式で行うことにより、デリバリーなどに比べて優れた点が何点もあります。その

第1は、学校の状況、それから子どもたちの様子、そういったことに寄り添った献立と調理が可能になるということです。

それから、第2に、先ほど出ました食育がよりの確にできると思います。

それから、第3に、食材の調達がより容易になると思います。これは、統一献立で数十校分の食材を用意するのに比べ、独自献立ですと、小規模で可能ですから、柔軟な対応ができます。これは、地元の商店や農家の活性化にもつながると思います。

第4ですが、アレルギーの対応が的確にできます。また、調理後、最短で提供することができますから、食中毒など回避にも最も適した方法だと思います。

それから第5に、先ほども触れましたが、忙しい中学校の現場に新たな負担を持ち込ませないために、栄養士さんの配置、これが必須だと思います。

以上、主な点に限定しましたが、是非、この2つの要件を満たした自校方式ということでもよろしくお願ひしたいと思います。どうもありがとうございました。

市長：ご意見・ご質問ありがとうございました。まず、桜庭さんから習熟度別クラスの話ですけれども、桜庭さんは教員の方ですか。

桜庭さん：中学校の教員をやっていました。

市長：ご夫婦ですか。

桜庭さん：抽選で二人が当選・・・。

市長：ご夫婦で教員ですか。

桜庭さん：はい。

市長：そうですか。ありがとうございます。

私が習熟度別クラスというと、塾のような進学校を目指すかのようにとられているのは結果的に大変残念。しかし、私が目指しているのは義務教育課程ですので、100%子どもたちがきちんとわかる。学力の定着がきちんと図られる。これが目的であります。

そういった意味で、今、少人数学級の取組の中で、さまざまなやり方をやっております。科目別ですとか、あるいは一部習熟度も含めてですけれども、あるいはまったくランダムに選んで少人数学級ということもやっています。

先日、私と教育委員の皆さんと学校視察をして、現状の取組を見てまいりました。少人数学級について、教員が受けている印象と、生徒さんたちが考えているものには大分開きがあるように印象を持ちました。一方で、それだけが全て、私が話を聞いただけでそれがすべてだとは思っていませんので、しっかりとわかる授業の提供のために、どういう方策が良いのかということについて、教育委員の人たちと、しっかりと問題認識と解決策、特に、これからやっていきたいと思っています。

それから、中学校給食、お三方からいただきました。

長戸さんからは、残留農薬、放射能の話がありました。国の方で、しっかりと基準もありますし、その基準に従ってしっかりやっていきたいと思います。市独自の基準づくりという方もいらっしゃるが、そういうことでなく、しっかりとした基準に基づいて提供していきたいと思います。後ほど触れますが、しっかりと子どもたちに、おいしくて、とにかく安全なというのは、私も、子を持つ親として当たり前のお話ですので、しっかりやっていきたいと思っています。

君嶋さんも含め、お二人は、自校方式でという話がありましたが、私が中学校給食で出しているのは4条件ございます。おいしくて、温かくて、そして安全で、栄養価が高くて、食育がしっかりとできると、5つ言ってしまいましたが、こういった条件を兼ね備えるもので、限りある財源ですので、どういう方法がいいのかを、今、検討しているところです。

手法については今後教育委員会の中で、実施方針の中で検討されるということですが、その条件をしっかりとクリアする方式でやっていきたいと思っています。

桜庭さんからおっしゃっていただきましたが、中学校の時はだいたい食が乱れる時期でありますから、この時期にしっかりと食育をやっていくことが大変重要だと思っています。

議会の議員の方々もお見えになっています。今日、議会が閉会したのですが、教育委員の新たに選任するという議案を出させていただきました。新しい教育委員さんには、栄養士の方をお願いさせていただきました。それは、中学校給食だけではありませんが、いかに食育を重要視しているかということの表れとだけいただければと考えています。

以上です。

イ 高齢者福祉（ウと合わせて市長コメント）

佐藤さん：関東労災病院に勤めています佐藤と申します。発言の機会を与えていただきありがとうございました。

わが国は、あと10年高齢者が増え続けるわけですが、高齢者の生活の基盤は地域包括ケアで、医療の主役は、在宅医療にという認識が出来上がっております。

地域のお年寄りの慢性期の病気が急に具合が悪くなった場合は、今の診療報酬上から言いますと、200床以下の地域包括ケア病棟で治療するというスキームがあり、一方、500床以上の病院には在宅支援機能が付与されていません。あくまでも診療報酬上の問題です。

ただ、現実には、私どもの病院も500床以上ありますけれども、在宅の患者さんや、慢性期の患者さんも収容しています。このギャップの中で、私たちは今後の方向性を非常に模索しているところです。

地域包括ケアを推進する行政は、在宅支援機能をどう考えているかお聞きたいと思い、今日発言しました。

笠井さん：すいません。笠井と言います。先ほどもありましたけれども、介護保険がこれから改訂する中で、地域福祉の充実がとても大切だと考えています。その中で、介護度の軽い要支援の方が国の方からではなくて、地方自治体に移されるということで、国の指針が具体的には出ていないと思いますけれども、川崎市の中でどのように地域で暮らし続けられるかをどう考えていらっしゃるかお聞きできたら。

それで、軽い人が私たちのところに実際に来たときに、どうしても担う人が大きい事業所とかでなくて、私たちもNPOでやっていて、NPOだからと言ってボランティアではないのですけれども、そういう小さい団体がやっていくことがいっぱいあると思うのですね。そういうところを市の方で見つけ出していただいて、是非、私たちの事業等を継続できるようなかたちにしていただけると、大きいところではなく探していただけるとありがたいと思います。

ウ 障害者福祉

藤田さん：視覚障害者の藤田と申します。今回は、盲導犬、補助犬に関してちょっと言いたいと思い、来ました。川崎市は、補助犬に関して、何にも補助がないですね。しかし、横浜市、相模原市、また神奈川県以外の自治体では、補助犬の医療費について全額ゼロ、負担ゼロ。あと、東京も負担ゼロ。川崎市は全くなし。再三、議会、議員にお願いしているがなかなか進んでいません。

今、川崎市内には、盲導犬が4頭しかいないのですね。2200人視覚障害者がいて4頭。その他に、障害介助犬、聴導犬もいるのですけれども、横浜市は聴導補助犬として70頭位いるのです。しかし、川崎市は4頭で、盲導犬だけ。これは医療費が高いから、使いたくても使えないのです。是非、医療費の補助をお願いしたいと思います。盲導犬は私たちの目の代わりです。どこでも行きますので、病気にかかったら入れないのですね。ですから、必ず定期健診に行つて、薬を使つて直したりしますので、よろしくお願ひします。

中島さん：私は聞こえません。手話を主に使つております。施設の中、例えば中原区の場合、アリーナの隣にミュージアムがあります。そこに、字幕、又は文字掲示板が全くないのですね。例えば、災害が起こつた時、地震や火事などの時に全く聞こえないので、情報を得るために、字幕掲示板を付けていただきたいと思います。また、中原市民館、それから市に関係ある色々な施設にできれば字幕を付けていただきたいと思います。

高齢者のために、または、子どもたちのために、わかりやすく、振り仮名をつけたような大きな文字掲示板を作つていただきたいと思います。そうすると、私たちも安心して暮らせる、そういうシステムを是非作つていただきたいと思います。

すいません。時間が余つているので捕捉いたします。あと、フラッシュライトとか、光フラッシュなどがあればありがたいです。それに加えて、色々な光があればありがたいです。

市長：それは何のライトですか。

中島さん：今、川崎市聴覚障害者情報文化センターで、3.11の時に、フラッシュとかが壁一面に、目でわかるようにフラッシュが施設内に点くようになっているのですね。川崎市立豊学校の体育館の中にも、聞こえない代わりに、見てすぐわかるように、フラッシュがつくようなものがあります。

本多さん：本多です。手話で安心して、コミュニケーションできるまちづくりに向けて、

お願いしたいと思って発言します。2011年8月に障害者基本法で、言語は、日本語だけではなく、手話を含むということが明文化されました。それによって、聾者たちは、手話言語を認めてもらうような法律を作ってほしいという要望をしています。一つは、国に対して、手話言語法を作ってほしいという取組がされている。それを成立させるのは簡単なことではないので、各都道府県などから、国に手話言語法を作ってほしいという意見書を提出してほしいという声を皆さん持っていらっしゃると思います。そのことで協力をいただきたいということ。

都道府県ということであると、鳥取県では、2013年10月に、鳥取県手話言語条例というのが制定されました。それで、県内の皆さんや、聾学校の先生や親たち、庁内色々な方たちが手話を学ぶ条件が作られてきています。

是非、今、私たちの取組では、神奈川県で手話言語条例を作ってほしいという動きですが、川崎市からも県にも働きかけて、手話で安心して暮らせる環境づくりのご協力をお願いしたいと思います。

市長：まず、佐藤さんからは、地域包括ケアのお話をいただきました。2025年は、団塊の世代が75歳になる時に向けて、国の方で地域包括ケアというものを作っていこうという取組を進めていて、川崎市でも、今年度、25年度から、地域包括ケアをどうやっていくかということで、医師会や、看護協会、看護の専門職種の方、病院協会も入っていたかもしれませんし、薬剤師会、それぞれ医療関係団体の皆さん、在宅に係るような皆さんと会議を設けまして、情報交換を今やっているところです。

来月、4月からの川崎市役所の体制ですけども、地域包括ケア推進室というのを健康福祉局の中に新たに行政組織として作りまして、しっかりと地域包括ケアをやっていこうという準備体制を整えているところです。

佐藤さんはお医者さまですか。

佐藤さん：病院の管理者です。

市長：ぜひ、これから具体的に地域包括支援センターもそうでありまして、各区役所でも地域包括ケアをどうやっていくか、さまざまヒアリングをやっていきますので、是非、佐藤さんもアドバイスをいただければありがたいですので、是非、よろしく願いいたします。

それから、田崎さんから、要支援1、2の対応ということですが、今、法律が改定されていて、これまで全国一律にやっていたものが、市町村の新たな総合支援事業という形で、改定されるということで、今後、市町村がどうやっていくか問われると思います。先ほど、NPOでやっておられると聞きましたけれども、そういう地域資源がたくさんあるのは本当にありがたい。NPOやボランティア、あるいは法人だとか、さまざまな主体が地域の中で活動していただいていることをよく認識して、しっかり連携が取れればと思っています。

これから具体的話になっていくと思いますので、是非、意見交換させていただいて、一緒にやっていきたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。

それから、補助犬、盲導犬を含めた、補助犬の話ですが、補助犬の医療費ということで、藤田さんがおっしゃった横浜市との比較で、補助犬の医療費に補助があるから、補助犬の導入が実際に多くて、医療費がネックで川崎では少ないということでした。これは事実でよろしいでしょうか。実は私も初耳でしたので、しっかりと勉強させていただきたいと思います。盲導犬をはじめとした訓練、育成の事業は、都道府県事業になっていて、神奈川県だと思っています。

藤田さん：神奈川県で補助は3頭だけです。それも協会に入ります。私たちには来ません。

市長：県と市の役割分担もそれぞれありますが、今、藤田さんにおっしゃっていただいた横浜との比較について、私も勉強させていただいて、実態を把握して、できることを考えたいと思っています。

藤田さん：毎回議員さんを通じて言っています。

市長：ごめんなさい。私は初めてだったので、少し調べさせてください。

それから、文字で掲示してほしいということですね。川崎市福祉のまちづくり条例というのを持っていて、それに伴って、例えば、銀行とか、役所もそうですが、窓口があるところは、なるべく文字表示をするようにと指導させていただいているし、取り組んでいると思います。まだまだ、不十分なところはあると思いますが、積極的にお願いするところにはお願いし、指導するところは指導していきたいと思っています。

それから、ライトの話ですけれども、先日、私も、聾学校に視察に行きました。ライトがあつて、これはどういうものかと説明を受けた。今の中島さんのおっしゃった説明でどういうものか分かった。どういう施設でどういうものが必要か少し勉強させていただきたいと思います。

全部が全部、どのように対応できるかは、まだ分かりませんが、よろしいでしょうか。

中島さん：主に、駅とか、バスの停留所などにつけていただきたいと思います。何か災害が起きたり、地震が起きたりしたときに、見てすぐわかるようにつけていただきたいと思います。よろしくお願いします。

市長：どういう施設に、どういったものが必要か、優先順位を考えてしっかりやっていきたいと思っています。

中島さん：是非お願いしたい。

市長：手話言語の条例制定ということで、県の方に言われている。

本多さん：神奈川県で条例を作ってほしいという取組をしています。他のところでは、

市で条例を作ってほしいと要求したりしています。私はきちんと把握していませんが、鳥取県といくつかの市で言語条例を作ったところがあると聞いています。

もうひとつの角度では、国に手話言語法を作ってほしいというお願いをされていて、それは各市町村から、国の方に意見書を議会などから出していただいている。それは、かなりの地域から国の方をお願いしている。

市長：これも実はわたくし初めて聞いたのですが、障害者団体の方から何か要望いただいていますでしょうか。目を通した・・・。

本多さん：市の方にどういうふうに出ているか、県の方にはお願いしているのですけれども、全国的には「みんなで作る手話言語法」という冊子を出して取組をしている。よろしければ500円で買えます。

市長：しっかりとしたお答えにはなりませんけれども、まずは、500円で買わせていただいで勉強したい。

エ 緑・公園関係（オ、カとあわせて市長コメント）

寒河江さん：皆さん、こんばんは。等々力町内会の寒河江と申します。市長にお尋ねしたいのですが、等々力緑地の整備計画をどのような考えで進行されているのか。それと、私たちのところには、小学校があり、中学校があり、通学路そのものの確保もしていなくてはいけないのですが、今の生活道路も現状のまま利用できるような状態に通行していただけるのかどうか。今まで、説明を受けた中ではあいまいなのです。公園の中を、歩行者と自転車が通ってもいいが、自動車は公園の中は一切通せませんとおっしゃっているのですが、その点をもう少し、歩行者はどのような方向性か、歩行者と自転車は、車両はどんな方向性で通行させるのか、その点をお聞きしたい。

安田さん：安田です。私は、長く中原区に住んでおります。多摩川、等々力緑地、二ヶ領用水があり、大変環境が良い所であると思っています。ところが、近年、住宅とか、施設を拡充する目的で、昔の本当に良かった中原が消える場面が見られており、大変残念に思っております。

私は、二ヶ領用水・中原桃の会に所属して、日々活動しています。30年前、地域の有志が二ヶ領用水沿いに植え始めた桃、桜、梅の木々は行政の方々にも理解や援助をいただきながら、今、30年が経ち、立派な並木となっています。温かくなり、本当に花が開き始めましたので、是非おいでください。

しかし、近年の猛暑、大雪、それから桃の木の寿命ということで、現在、立ち枯れ、あるいは重症の木が増え続けています。桃並木をこのままにしておけば、本当に消えていくのです。

それで次世代に、この桃並木を伝えていくためには、根本からの植え替えが必要だということで、皆で知恵を絞っております。私たち、桃の会でも、この桃並木を保全し、再生させるために、少しずつ植え替えながら頑張っていますが、是非、行政側も、それぞれの

部局が縦割りではなく、横断的に取り組み、共に、私たちと協働して、この桃並木の保全・再生に取り組んでいただきたいのです。よろしくお願いします。

オ 防災対策

山本さん：山本と申します。私は、7年前に、米国のほうから移り住んできましたので、全く新住民です。この7年間で、私が住んでいる周りがかかなりタワーマンションだとか、大きいマンション等が建って、人がだいぶ混んでおります。

そういう災害の時にどうしたらいいかということで、災害においては、自助と言いまして、自ら助けるという方式と、共に助け合うという共助、あと、行政の公助というのがあるのですが、実際の災害の時に発揮するのは自助なのですね。6割が自助、3割が共助、1割が行政の公助ということで、自助は非常に大事なので、私は中原区のまちづくりの推進にもなっていますので、是非、小冊子を作ろうということで、捨ててもいいようなものを活用しまして、色々な防災エコグッズを作りましたし、小冊子も作りました。こういうことで、もっと活動していきたいと思っていますので、こういう市民の活動を作る環境づくりを、地域資源活用という観点からは是非お願いしたいと思っていますので、よろしくお願いします。

橋本さん：市長にやっと会えました。よろしくお願いします。

前の市長は、小杉の開発問題で、住民が住環境の破壊につながるということで、何千何万の意見をだしても、全く聴く耳を持たないということで、住民無視の姿勢を続けてきてしまいました。新しい市長は市民参加のまちづくりを進めているといっていますので、大変期待しているところです。

今後の小杉の開発の問題ですけれども、人の賑わい、商業・経済を活性化することは歓迎しております。人口密集地域に超高層マンションを建てて、何千人もの人口増を図ることは理解し難いことなのです。とりわけ、巨大地震が予測されるときに、小杉周辺、病院のグラウンドがなくなれば、住民はどこに逃げればいいのか、逃げるところもないようなまちづくりはおかしいのではないかと思います。

日医大の開発計画は市が事前に意見を聴いて反映させると聞いておりますので、是非、市長が先頭に立って、住民の声を取り上げていただいて、特に、超高層をこれ以上建ててほしくない、安全・安心のまちをつくってほしいという要望が圧倒的なので、その声を活かしていただきたいと思います。

最後に、たった90秒の発言では、議論になりませんので、小杉の開発という大きな問題で集中的な議論の場を作っていただきたいと要請して、私の発言を終わりにしたい。

上村さん：小杉2丁目の上村です。超高層マンションが連立して、将来の不安を大変感じています。タワープレイスによる風害で既に大勢の方がけがをして、近隣では扉が何度も壊れており、私の家のガラスも割れました。

超高層マンションが建設されれば、さらにビル風被害が増えるのは目に見えていることです。都市開発計画の目標には次のことが書かれています。市街地の防災性、安全性の向上、しかしながら、避難所だった日本医大グラウンドがなくなるので、安心して避難できる

場所はありません。超高層マンションの敷地の一部や、新設される小学校などの小さな広場では到底人が入れきれません。地震で揺れる超高層マンションの敷地・広場には怖くて近寄れません。火災もビル風であおられるところです。

次に、歩行者空間とオープンスペースについて伺います。強風時にビルの歩行スペースで歩けるとは思いません。それに超高層ビル敷地のおまけのようなスペースは要らないのです。防災時の十分な広さの公園広場が必要なのです。超高層のマンションを建てるだけが都市開発ではないと思うのですね。

私たちは安全で住みやすく、魅力のあるまちづくりを希望しているので、どうか小杉の北側の都市計画を見直してください。

市長は、市民参加のまちづくりを掲げられていると新聞にも出ていましたが、この集会はインターネットでも閲覧されますので、本当に期待しています。よろしくお願いします。

カ 交通

酒井さん：酒井です。私は聞こえません。川崎市聴覚障害者情報文化センターをよく使っております。ここの近くは、元住吉駅、小杉駅、中原駅が最寄り駅となり、情報文化センターに歩いて通うわけですが、15分から20分かかってしまうのです。聴覚障害者情報文化センターでは、例えば、学習、聾協の会議ですとか、月に2回のミニディサービスなどで聾者がよく利用するところです。ただ、歩くには少し遠いですね。みなさんととても大変だと言います。できれば近くにバス停を設けていただきたいと思うのです。聾者がたくさん気軽に集まれる場所にしてほしいです。

以上です。

小宮さん：上小田中在住の小宮と申します。私の要望は、JR東日本のホームの延伸工事に川崎市の都市計画税や固定資産税を低利貸付け等、もしくは補助等を使いまして、そういった税金をですね、・・・・です。と申しますのは、昨年10月にJR東日本はJR南武線の混雑対策の要望に対して、ホームを延伸するには、中原区で言いますと、平間とか、向河原とか、武蔵小杉のホーム延伸の民地の買収が必要だということなのです。それができない理由として、東日本はお金がないから、とてもできないと。ついては武蔵小杉駅周辺でやっているような都市計画があるのであれば、費用的にはホームの延伸は面積を食いませんから、都市計画税とか、固定資産税を使って、ホームの延伸工事をやって、6両を、せめて7両、または8両にしてほしいのです。市長も、朝の7時半に登戸から川崎まで平日週5日通ってください。もしくは、夜の11時に立川行きに乗って下さい。お願いします。

市長：まず、生活道路の話、等々力緑地の話ですけども、地元の区長からでもよろしいですか。

中原区長：我々も建設緑政局から伺っているのですが、陸上競技場のメインスタンド計画の中で道路がなくなってしまうということで、あと野球場の整備が入りますので、その中を歩行者なり、自転車が通行することが可能なような整備をするという話で、それは確

実と聞いている。自動車道路については若干迂回するような形になるという報告を受けています。

寒河江さん：それは何年後。

中原区長：野球場の整備が若干確定しないところがあるので、その間、過渡期の道路の使い方になってくるので、野球場の整備がきまった段階でご説明できると思う。

寒河江さん：学校の通学の安全性は確保されるのか。

中原区長：少なくとも歩行者は可能だと伺っています。

市長：それから安田さん。二ヶ領用水の桃の木の話ですけれども、ずいぶん前に桃の木を皆さんで植えられたということですね。桃の木も寿命ってもうそろそろじゃないですか。

安田さん：そうです。花桃は15年といわれています。それが、本当に強く、もっていますけれども、もう30年経ちまして、去年の猛暑で、次々、立ち枯れが出ています。ということで、このまま、放っておけば……。全国でも花桃の並木は少ないので、川崎の名所なので、一緒に再生をとということです。

市長：これ、まさに市民参加でまちをつくって、良い名所を作っていただいた成功例の一つだと思います。どこまで行政がやるかは、色々な考えがあると思いますが、せっかく作っていただいていたところなので、これから中原区で木を公募する話ってありませんでしたっけ。

安田さん：区の木ですね。

市長：そう。区の木、桃の花、これ、いつごろの話ですかね。

中原区長：90周年にあわせて、

市長：90周年だから今年ですね。桃の木になるとまた違った形が出てくるかもしれません。

安田さん：そうですね。皆さんよろしくお願いします。

市長：それこそ、市民主体のまちづくりに、行政としてどんなことができるか少し考えてみたいと思います。是非、せっかく市民の皆さん主体で始めていただいたことなので、是非市民力を発揮していただきたいと思います。

区としても、あるいは、市としても、どんなことができるかわかりませんが、い

い街並みを作っていきたいと思います。

それから、山本さんから、色々小冊子を。これ、私持っています。ありがとうございます。

山本さん：区からも・・・。

市長：先ほどご紹介いただいたように、災害になると、自助が6割、共助が3割、公助が1割といわれているように、自助が最も大切だと思います。そういった意味で、色々な主体が地域の防災ボランティアの皆さんをはじめ、色々な方に地域防災に携わっていただいていることは心強いことです。そういった様々な主体の皆さんがばらばらということにならないように、うまく連携できるような形にしていきたいと思います。例えば、消防局なんかと、もう少し、地元の地域ボランティアと皆さんと一緒に連携した上手い組織作りについても考えていきたいと思っています。

それぞれの良い取組が、上手く組織立ってというのも変ですが、うまく連携できるような形にしないと、良い形にならないと考えておりますので、しっかりとやっていきたいと思っています。

それから橋本さん。小杉の避難計画という話だったと思いますけれども、上村さんと、だいたい同趣旨だったのでしょうか。地震が来たら、どこに避難するのかということですけども、今、小杉2丁目の地域だと西丸子小学校でしょうか。

上村さん：うちの家は、日本医大の大きいグラウンドが近いので、相当、人が入れるような大きい場所なので。

市長：今度、日医大の新たな計画によると、新設される小学校がおそらく避難場所になる。小中学校がそれぞれ避難場所ということになっていますので、かつ、これからのまちづくりの中で、公開空地というか、広場的なもの、先ほど上村さんからもありましたけれども、・・・。

上村さん：全然避難場所にはならない。

市長：わかりました。ご意見として承りたいと思います。

それから風害の話。私も知っていますし、市長になってからも見に行きました。吹いているときと、吹いていない時があって、一概に私が行った時がそんなでもなかったといっても、風害がひどいのは良く知っています。

あそこのビルできたのは15年位前、20年位前になりますかね。その時の作り方は本当に風害のことはあまりよく知られていなかったのかなと思いますけれども、・・・。

上村さん：小杉のすぐ横の新しくできた商業施設の入っているところも、新しくなってから、あの近くも風がすごい。

市長：今、風量計というか、観測機を付けて調査をやっているのですが、それについては結果が出次第、しっかりと公表していきたいと思っていますし、僕もこの間、見に行き、色々な取組の工夫は一応しているけれども、なかなか難しいなど、色々な制限もあって難しいなど。今後の再開発の計画に当たっては風害のところはしっかりと配慮しなくてはならないと思います。

以上です。

上村さん：20年経った今もビル風がなくならないというのは分かっているので、……。

市長：どうやったらある程度風害がなくせるかという、建築の構造上の問題を改善することはぜひぶん研究が進んできております。

上村さん：高さを変えるしかない。

市長：タワーのところの風害のことについては私もよく知っている。本当に、窓が割れたというのにはびっくりしましたけれども。

酒井さん、国際交流センター、聴覚障害者情報文化センターの近くにバス停をという話でしたけれども、周辺のところは住宅で道幅が狭いこともあって、折り返しもできないということでもあります。ですから、駅からは遠くて、不便さはあるかもしれませんが、ご迷惑をおかけしますが、一番近いバス停だと徒歩5分くらいでしょうか。市バスからすると、8分から10分と聞いていますが、そのくらいかかってしまうということで、ご不便をおかけしますが、バスが通れないということで是非ご理解いただきたいと思っています。

酒井さん：5分というのはどこにバス停があるのですか。5分というのは私知らないですが。

市長：いずれにしても、ちょっとバスが入っていくのは非常に難しいということがありますので。

酒井さん：でも、できれば小さいバスでもいいと思いますので。

市長：川崎市内でも、本当に多くの皆さんから小型のバスということはいわれています。市内いたるところで小型バスを走らせていただきたいと。特に、北部地域に多いのです。山坂が多い所ですからね。特に、この中原区はまだ平らなほうでして、北部に行くともっと山坂が多いので小型のバスを走らせてほしいというのがたくさんあります。ですから、総合的な中で優先順位をつけてやっていきたいと思っています。

小宮さんからの南武線の混雑。大変な混雑ということは私も理解しています。半端でないことは分かっています。6両の……。

小宮さん：39年くらい前から変わっていないのですね。

市長：これまでも神奈川県全体の話として、鉄道輸送力増強会議というのがあって、鉄道輸送力を高めてもらうことをJRにかなり何度も繰り返しお願いしているところです。今年の夏からですけども、南武線が幅広車両。

小宮さん：中央線で導入しているやつ。

市長：川崎市でも導入されますので、若干の緩和になるかと思いますが、いずれにしても、これだけ人口が急増しているの、混雑は大変深刻な問題と捉えていますので、そういう意味で引き続き努力していきたいと思っています。

キ 小杉駅周辺のまちづくり

入交さん：小杉御殿町2丁目に住んでおります入交です。よろしくお願ひいたします。先ほどから、是非、市長さんには住民を苦しめているビル風の原因となる超高層ビルの建設計画を見直していただきたいと思うのです。

小杉駅周辺の風害の現状について、是非述べたいと思います。私たちは、一昨年、小杉駅周辺でアンケート調査を実施しました。タワープレイス周辺で本人・家族などが被害を受けた人が90%以上。昨年5月にはご存知かと思いますが、南部沿線道路沿いの並木が倒れました。私たちは、6月から小杉駅周辺19カ所で、簡易観測計で、31回測定してきました。7月に、タワープレイス南側で、20.7mが観測されました。中原区役所に風速計があるのですが、その市公表値の5倍以上の風速が、タワープレイスと東横線の上のエクラストワー周辺で4カ所で計測されました。それがこのピンクのところ。

それで、2月の住民アンケートでは、96%の住民がビル風を心配しています。駅北側には高さ100mのタワープレイス一棟のみですが、このビルにある風を現在、防ぐことはできていません。弱者に優しいまちづくりをお願いします。

現在の高さ制限20m内での再開発を是非お願ひいたします。

広川さん：小杉丸子まちづくりの会の代表をしております広川と申します。

私たちは、小杉北側地区の再開発に何が何でも反対と言っているのではないのです。市が出されているマスタープランで「安心で、安全で歩いて暮らせるまちをつくる」とあります。本当にそのまちをつくってもらえれば本当によいと思っています。でも、市が作っているものは、どうもそうはなっていないということを市長に一棟だけ見てご存じかもしれませんが、一棟180mが許可されて工事に入っている。

そういうことがあって、自分たちでできること、今、自助ということでしたが、アンケートを取るとか、そういうことをやっております。今回の日医大の計画については、実際に住民意見がどうなっているか、今、市は何もしてないですね。住民意見を聞いていません。

ですから、私どもは、この区域の5000戸にアンケート用紙を配り、回収をしました。550戸の回収がありました。その中で、いわゆる孫の代までビル風、日影、交通混雑、こういうものが起こるものには反対だと。儲かるのは開発事業者だけだ。こういうことを

地域住民93%の人たちが言っております。

そのことを先日市議会に報告をしました。陳情を出しました。ちょっと長くなりますが、その時に、担当課にあなたたちは知っているのかと申しあげたら、それはあなた方、一部の意見ですね、私たち、市は全体を見ているので、今の高層建築計画を変える意思はないと、前の市長と全く一緒の回答でした。そこで市長にお尋ねしたいのですが、我々は、計画地周辺で生活をして、もう被害を被っていますし、もう被害は全部目に見えているのです。こういう状況で、安全で安心のまちづくりをするために、市長どうすれば、この地域の住民の意見を聞かれるのですか。教えてください。

こういう対話と現場主義の市長、市民のための市政と言っていますので、是非市民の意見を聴いて実行してほしい。

秋山さん：小杉の秋山です。こんばんは。私は、小杉のまちづくりについて発言いたします。今、小杉は、超高層ビルが林立し、容積率を上げるための公開空地が少しあり、人工的なまちに変わりつつあります。

完成したマンションには、たくさんのお子さんが入居していますが、一体どこで遊ぶのでしょうか。最近の子は、なかなか外で遊ばないとはいいますが、やはり子どもの健全な発育には自由に体を動かせる、動かして遊べる公園や、そして、今回は保育園のことに触れられていないのですけれども、保育園も不足していますので、安心して預けられる保育園が必要だと思います。住民の福祉と、生活を向上させることが地方自治体の第一義的な役割ではないかと思っておりますので、よろしく申し上げます。

小杉駅北側で工事が始まっていますが、まちがきれいになるのは私たちもうれしいですし、期待もしています。しかし、中低層住宅地域の中に180mの超高層マンションが林立して、全て完成すれば、一日中日照が遮られる状況になるのはとても許せません。

川崎市が、現在の高さ制限を変えなければ、事業者が勝手に超高層は立てられないのですから、市長のお考え一つで、超高層化するという川崎市の開発の方向性は変えることができると思います。

是非、住民の切なる願いである超高層化計画を変更してください。

今回はこのような機会を設けていただいてとっても嬉しく思っています。一度といわず、何度もお願いしたいと思います。

市長の対話と現場主義に是非期待しておりますので、よろしくお願ひいたします。

潤間さん：潤間と申します。申し上げたいことはたくさんあるのですが、時間がありませんので1点に絞って話をさせていただきます。小杉駅周辺の再開発は市のマスタープランに基づいて行うと聞いておりますけれども、このマスタープランそのものは開発のみを重視して、本当に近隣周辺の住環境についてほとんど欠落させてきている。例えば、緑については等々力緑地が入っているけれども、周辺の緑には一切触れていません。

こういった内容のマスタープランであります。ですから、非常に小杉名物となっているこのビル風とか、それから複合日影ですね。ほとんど一日、日が差さなくなるであろうという状況も生まれるのではないかと思われている、この複合的日影。これらは、いずれも、このマスタープランによって、起こるべくして起こった。起こるものであると私は考えて

いる。

どうすればいいのかということについては、小杉駅周辺のマスタープランについて、5年ごとの都市計画基礎調査を踏まえて、定期的な見直しをすると書かれています。2009年にできていますから、5年目はもうじきですね。是非、この見直しをしてほしい。その時には、予定されている計画はいったん停止していただきたい。それと、住民の声を十分聞いて、もう一回、マスタープランを組み替えていただきたい。ちなみに、小杉2丁目計画はマスタープランにはありませんでした。にも関わらず、マスタープランを理由にして、都市計画決定をされました。こんな、無茶苦茶なことがされたわけです。こんなことは2度とあってほしくないのです。

最後に、このような場を作られたことは非常にありがたいと思っています。是非、1回と言わず、なお、テーマを絞りながら、複数回重ねていただいて、住民の意見を吸い上げていただきたい。長くなりましたが、以上で終わります。

高橋さん：このすぐ近くの小杉御殿団地に住んでいる高橋と申します。小杉についての開発のことですから、同じような意見になりますけれども、タワーマンションを中心に据えた開発の方向を転換していただきたいと思っています。周辺の市民には複合的な悪影響が降りかかっています。すでに建設された超高層ビルが壁のようになって、私たちが一種住居地域では、大きな日影がかかっています。もちろん、駅だとか、風害だとかの問題もあります。このような現状があるにもかかわらず、市長は予算委員会で、「まちの魅力やポテンシャルが向上した」、賀詞交歓会では「スピード感をもって小杉の開発に努める」とお話しされています。

開発の一面しか見ていない、この発言に私は大変失望いたしました。是非、弊害で苦しんでいる市民の意見を取り入れてください。それには、スピード感ではなくて、じっくり検証することが必要だと思います。

私たちの団地には隣接した公園がありますが、ここにはすごく多くの保育園児達が遊びに来ます。過密状態になるくらい来ています。遠くから来ていますので、調べてみますと、東急スクエアの中にある保育所からも来ています。遠くは東横線の線路を越えた向こうからも来ています。何度も一週間に来ているようですが、幼児がビル風の中をえんえんと歩いて、遠くまで来ないと遊び場がない。今の小杉はそういうまちです。これで良いまちづくりと言えるのでしょうか。是非、そういう意味も含め、公開空地が、遊び場になる、避難所になるという、まやかしの言葉ではなく、いったん足を止めて、検討をし直していただきたいと思っています。

90秒は短いです。もう一度こういう場をください。

香山さん：小杉町2丁目、開発近隣の団地管理組合をやっております理事長の香山でございます。約2年半前、この計画の環境影響評価方法書説明会直前に、突然、この計画が発表され、超高層マンションの計画内容について周辺住民は驚きました。行政の手続きの中で、後述や意見書、時には4万通近くの意見書を提出しましたが、市の都市計画素案から一字一句も変わらない。最終提案で、都市計画審議会で決定され、被害を受ける住民の声は取り上げられませんでした。つまり、一部の住民以外、近隣住民はこの計画を知らさ

れていなかったし、計画が公になっても都市計画決定されるまで、本来は住民意見を取って検討され、変更されるべき手続きの中で、都市計画案は全く変わりませんでした。全く変える意思はなかったと同時に、形骸化していると思われます。こういう市の進め方、考え方には疑問を感じます。まちづくりについて、住民の意見を聞かないで、最優先に、民間のディベロッパーが参入し、高層マンションを林立させるのはおかしいではありませんか。まちづくりは、市と住民が二人三脚でやっているというのが本来のあり方ではないでしょうか。今後は日医大病院跡地の開発計画が控えております。どうか、地域住民が納得できる手続、及び計画の再考をお願いします。以上です。

菊川さん：小杉御殿町の菊川です。小杉の北側の地区は第一種住宅地域です。それが、この付近の全部、ここにありますが、皆さんが言った通り、このまちづくりは非常に不当です。もう決まるのが話し合いもなく、何もないうちに、決まっていく。そういう結果でいるのです。だから、市長さんもよく考えて、対処していただきたい。お願いします。

私は、80年、親の代からいますが、非常に、静かに今まで生活してまいりましたが、非常に困っているのです。ですから、よくお考えになって、対処していただきたいと思います。よろしくお願い申し上げます。

市長：皆さまからのご意見本当にありがとうございました。前の方も含めて、全員がこの計画されているものに反対というご意見だと思いました。おそらく、私のコメントが皆さんの期待の沿わないかぎり、ものすごく平行線に終わってしまうと思います。今日は、皆さんのご意見を率直に承りました。ありがとうございました。

認識しているところといえば、風害の問題は当初から私も懸念しています。そういったところを、今後のことについて生かしていきたいと思っています。

個別に言い出すとあれなので、今日は、本当にご意見ありがとうございましたということで引き取らせていただきたいと思います。以上です。

会場から：おかしい。90秒しか話していないのに。

市長：おそらく、皆さんの意に沿わない発言をしてもずっと平行線になってしまうので。

会場から：市民と市長でしょう。

市長：そうですね。今日は30人の中で、意見をありがたく承らせていただきました。

司会：発言をされていない方がまだ残っていますので。

会場から：もっと丁寧に答えてほしい。

市長：多分、皆さん同じご意見ですよ。

会場から：いや。違う。

市長：例えば、秋山さんは保育所の話がされましたので、整備もしっかりやっていきたいと思います。でも、大体の意見は。

潤間さん：具体的に言いました。お答えは？

市長：マスタープランはしっかりと検討していきたいと思います。

会場から：小杉の開発問題。

市長：ちょっとルールに則ってやっていただけますか。発言されていない方もおられるので。よろしいでしょうか。

ク その他、まちづくり（ケとあわせて市長コメント）

橋本さん：時間内に終わらないかもしれないので、原稿を早口で読ませていただきます。小杉御殿町の橋本と申します。小杉のまちづくりについて述べます。年末と先月に、川崎市と日医大が開発計画の説明会を行いました。その中で日医大は学校や病院の建替えと、180メートルの超高層ビル二棟の建設を一体のものとして検討しているということが示されてびっくりしました。しかし、まだ検討段階であって、地元の意見・要望をできる限り反映させる計画を目指すということなので、住民はここに望みを持ち、5000人に住民アンケートを実施し、559人の回答を得ました。中身は、超高層反対が93%、高さ20m以下を望むが62%、開発を見直すべきが90%、住民との合意を図るべきが99%でした。結果は、住民の圧倒的多数は超高層に反対です。市政だより3月号に市長さんが市政運営の基本は対話と現場主義で、市民の参加なきところでよいまちづくりはできないと言われていますが、その通りです。是非、私たちのまちを見てください。

小杉駅南側の工場跡地とは全く違う第1種居住地域で暮らす住民の願いをかなえてほしいと思います。私は、住民の声を代弁します。超高層はいりません。計画を見直し、これ以上まちを壊さないでください。住民意見を取り入れた、歩いて暮らせるまちづくりを望みます。アンケートに取り組んでみて、行政や開発業者が見落としている住民の怒りがあります。検討段階の今、住民の声を聞く機会をぜひ作ってください。

権藤さん：上小田中6丁目の権藤と言います。24年7月に武蔵中原駅北地区地区計画の中で、富士通の工場再開発計画説明会があり、60メートルのビルが建つことがわかり、富士通は土地を提供し、東側道路を拡張して、車出入り口を集約し、3か所の出入り口を計画していますが、駐車場台数が220台、駐輪場1600台の出入り口を東側住宅地前に作るということで、近隣住民の方たちで富士通川崎工場再開発を考える会をつくり、意見書の提出や、公聴会で見通しが悪く、ガードレールが設置できない住宅地内は避けて、富士通施設前や、現在の中門利用への変更をお願いしてきました。

公聴会后、三カ所の入り口のうち、住宅地前の門で富士通関連車両1400台中、13

00台が出入りすることが分かり、富士通と話し合いを持つことを何度か要請したところ、1回だけ説明してくれて、あと書面での説明がありましたが、納得のいく回答ではなく、署名を集めて、まちづくり委員会に陳情書を提出して、審査をしていただいたところ、富士通は住民と話し合いをするようにとの意見をいただき、川崎市の方が富士通に行って、住民と話し合うように行ってくれましたが、富士通は、説明は同じことの繰り返しと行って話し合いの機会を作ってくれません。

企業も地域とともに発展していくことが望ましいと思うのですが、このまま話し合うこともなく、7年間に及ぶ工事が始まると思うと不安です。

これは市政とは関係ないのかもしれませんが、どうしてよいか分かりません。

ケ その他

大西さん：私は、元住吉で歯医者をやっております。大西と申します。先日の医師会館での講演会に参加させていただきました。その時、お話を聞き、市長に非常に親しみを感しました。

私は、少年サッカーの指導とか、それから、サッカー協会の役員も長いことやっております。6年後の東京オリンピックでは、等々力競技場でサッカーの試合が一試合も行われないのです。オリンピックは都市開催なのに、サッカーだけはFIFAの力が強くて、いつも国全体でやっているのです。プレゼンの時に既に札幌から大阪までの会場が8つ決まっているのです。男女あわせて、60くらいの試合。決勝戦は国立ですけれど、全て振り分けられて決まっているのです。それで、サッカー協会も慌てて、サッカーのJリーグのチェアマンのところに行ってきたのですが、ただ決まっているから駄目ということ。それで、市長さんをお願いしたいのは、今度は政治の力だと思うのです。決まったことに横やりを入れるには、議会で何かを決議するなり、それで今オリンピック委員会の森善朗さんのところ、組織委員会のところまで行ってということができないかというお願いと質問でございます。

橋本さん：上小田中の橋本です。市長さんは、地域交流に力を入れていると感じていますが、行政間の交流も必要ですが、これからは市民の幅広い交流というものがさらに重要になってくると思っています。

市民同士の交流というのは、我々の力では、隣の区くらいまではできるのですが、多摩川を挟んで対岸までは及ばないという気がしています。交流を図る一つの方法として、それぞれ川崎市もそうですが、対岸のそれぞれの区や、町なども多摩川を中心にそれぞれ地図を作っているのですね。それを自分のところだけの地図を互いに市の方で間に入れて、両岸の地図が一枚になるようなかたちで、そういったものを作ることによって、今、市民が土手まで行っているのが、対岸まで歩けるという形になって交流したら、深まっていくと思いますので、こうしたソフト面では、大してお金もかからないと思いますので、よろしくをお願いします。

重富さん：重富と申します。よろしくをお願いします。

まず、市長さんが代わられて、市民参加を掲げているということですのでごく期待して、や

ってきました。今日お伺いしたいのは、一政治家として、市長さんが市政のあり方、議員と市民との関係性だったり、議会と市民の関係性として、おそらく市民の参加を促す方向で考えていらっしゃると思うのですが、具体的に、この車座集会以外で、もっと何か機会を作っていられるのかどうかをお伺いしたい。

今日の盛り上がりを見ても、まだまだ情報の共有だったり、意見の集約が議員さん個人を見ても、議会を見ても、市長さんを見ても不十分とっておりますので、参加するためのまず情報として、やはり市だったり、行政は伝えることへの努力はするのですが、伝わる努力まではおそらくしていないとっておりますので、幅広い世代に多くの機会を頂けるように個人的にお願いしたいと思っております。

以上です。

浪瀬さん：浪瀬です。こんにちは。私は溝口で行われておりました多文化フェスタの活動を、1999年に市民館で始めたものなのですが、高津区の関係ではありますけれども、川崎市の中では多文化共生の一翼を担ってきたと自負しております。この活動ですけれども、フェスタ当日の障害者の方や外国人の方など、どちらかというところ、マイノリティの参加の場になっていることと、交流だけでなく、実行委員会を当日参加することも担っていく、実行委員会を行っていくということで、お互いの理解、多文化共生という意味で大きな意義がありました。そして、その中から多言語を使った絵本の読み聞かせを行うグループや、そしてまた、その他に、外国につながるのある教育支援をやるグループが出てきたり、市の内外のイベントや講演のお誘いなど、広がりがありましたが、2012年をもちましてフェスタは突然中止になってしまいました。

それで二つお願いしたいことがあります。これは区との協働事業で行ってきたものでした。協働事業で行ってきたものを中止もしくは変更する場合に、十分な協議の場を持っていただきたいということと、それと、国の方でも移民政策などということも今後の人口減少で考えていくという話もニュースなどで流れています。これからの外国人の方や、障害者のある方などを含めた、異文化の方々との交流を作っていくうえでの川崎市の多文化共生のあり方をしっかりと、川崎市の中に位置付けていただければと思います。

市長：まず、橋本さんですが、先ほどの小杉の開発と同様な話だったと思いますので、ご意見としてしっかり承りました。ありがとうございます。

それから、権藤さんでよろしかったでしょうか。富士通の新しいビルの建設で、駐車場の入り口が住宅側に作られるということで、いろんなお話を伺って、市の方も富士通の方と、お話をさせていただいたというように、ご紹介いただいた通りです。市としても、富士通に働きかけをしていきたいと思っております。しかし、市が説明会だとか、こうしなさいという義務付けというのは、実は、市の権限ではなくて、お願いベースの話なので。そここのところを少し、ちょっと意に沿わないかもしれませんが、市の方も強制力が伴わないということなので、ご不満かもしれないけれども、ご理解いただきたいと思います。

大西さんから、サッカーの件でありました。市役所の中にも、今年になって、庁内で東京オリンピックに向けた組織をまず立ち上げて、どうやって取り組んでいくか、幅広い議論を行っているところです。

その中でのサッカーということになるかもしれませんが。

大西さん：都市でやるようになっていきますから、ほかの競技は東京都の周辺ではできないです。

市長：勉強させていただきたいと思います。

大西さん：政治力で、自治体同士で、横浜から一試合買うとか。

市長：もう少し勉強させていただきたいと思います。ありがとうございます。

それから、東京都側との市民交流というお話をいただいて、今、大田区の皆さんと経済交流をやっていますが、もっともっと市民同士が交流できるようにしていきたいと思えますし、私も、就任してから、多摩川沿川の自治体の首長さんにご挨拶に行ったり、意見交換をさせていただいております。せっかく、多摩川流域でつながっている自治体というのは、お互いに、上手く交流していこうということで、この前も、稲城の市長さんと一緒になって、多摩区と稲城市で共同のイベントをやって、お互いに市境を越えて、ウォーキングイベントがあって、私も一緒に行ってきたのですが、こういったイベントを色々なところで対岸とできればいいなと思っております。

それから重富さんから市民意見、いわゆる広聴をしっかりとやっていく、努力をしていくべきという意見をいただきありがとうございました。誠にその通りだと思っております。議会も含めてという議会の方から怒られますが、市の行政と、議会というのは、二元代表で、それぞれで機能があって、それぞれのかたちで広聴をやっていくと思う。しっかりとやっていきたいと思っておりますので、色々なご提案をいただければと思っております。

それから浪瀬さんから多文化フェスタというものが2012年に打ち切られた、中止になったということですが、たしかに、区との協働事業において一方的にとというのは、聞いていて、ちょっと、それはないという気がしますので、今後、協働事業で一方的にとすることが無いように、きちんと理解を進めたいうえで、中止するならば、中止するということが、多文化フェスタに限らず、そういう姿勢で取り組んでいきたいと思っております。

こういった多文化フェスタみたいなものは、ご紹介いただいたように、派生して、色々なグループの活動が出てきたのは有り難いと思っておりますし、これからは川崎市は多文化共生都市としてしっかりと取組を進めていきたいと思っております。

以上です。

(3) 市長の言葉

多くの皆さんにご意見をいただきまして、本当にありがとうございました。

多種多様なご意見と、それから小杉の開発については多くの皆さんからご意見をいただいたことを、しっかりと私も受け止めさせていただきたいと思っております。

これから各区をそれぞれ、まだ3つ目の区ですので、各区回って、それぞれ145万の大きな都市で、7つの区で、それぞれの地域で、それぞれの特徴があって、それぞれの課題があると思っておりますので、活かせるところをしっかりと活かしていきたいと思っております。

りますが、それぞれのご意見に対して、意にそぐわないこともあるかもしれませんが、しかし、私は、聞く耳というか、しっかりと伺いする姿勢はしっかりと持って、これから進めていきたいと思っていますので、今後ともご理解をよろしくお願いしたいと思います。

今日は長時間にわたりありがとうございました。